

34  
6

館書圖京東					
六	三		一		
	四		一		
冊	號	架	函	類	門

日蓮上人一代圖會  
陸

日蓮上人一代圖會卷之六

第三十六 三天秘書と太田氏小賜と共異賊襲来の事

弘安四年辛巳高祖は歳六十あるを。この年二月の末、本寺法華堂の三門前  
に異賊襲来り。高祖は衆人帰依する由に、因千里とをて、せむ志を來り、別後三  
十餘年の間、蓮華曼荼羅を宗義と終せ。然るに、祖の容を觀するは、昔の如  
く、九十八あるに、思ひごとく、今の如く、学業精進。その云所は、人亦實小生、業  
と稱せし。禮當あり。心と願け。且、然るに、所の宗義、高祖、釋て、形者、目玉を  
く、今より。若し、祖の徳を、有る。香圖と捨家と更にて、一乘の妙法、小飯。月と、經久、故郷へ  
歸りたり。今、東寺の門、有る。法華寺のその香壇址あり。今、小日辨の父、熱心、高祖、入  
道と、友と、若し。然るに、入尼が、所領の中、小、實、香、港と、入るあり。小、重との、實、の、字と、撰  
入道、小、て、寺と、造り。高祖、六、旬の、實と、伸たり。入道、小、本、教、ひ、高祖、も、ま、と、謝、一、の、小、令



一ノ不圓會巻之二  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の

加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の

加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の  
加へて蓮舟山常持寺と云ふ所の

刺罕病をぬきを城を更不阿答海をよと  
の官兵とて防ぎ支ひ守給官氏貞徳の  
秋八月海不若く。建大元死に彼勝と二十  
大元死に彼勝と二十游文雷の如く  
小軒集る唯于圖莫も異美。二人と救  
文今武召本天松山嚴持寺の實物と

紀年録と校ふふ弘安四年の五月  
海の信好兵と進め力戦は  
彼修練を依と中力なると

後高祖歷練めまゝの異域まゝまらんと。の程しつゝまらざる多。并御と合せざるに

日之丸東都最教寺  
兩面之大旗來記 月之丸身延久遠寺

弘安四年辛巳五月二十一日。從大元蒙古國賊船四千餘艘人數二十四萬餘責來七月於九州防戰其時這八大龍王之御旗圓中日蓮聖人為初禱之大曼荼羅令書此御旗先立向親王九州給時某為武之大將至九州則日本之靈神擁護有神風吹彼賊船其人數等不殘破異國追拂給日出度旗成故我家是預給畢

十二月二十一日

宇都宮貞綱判

這兩面之大旗者

惟康親王所持之御旗也弘安四年五月二十一日。從大元國蒙古未船四千餘艘人數二十四萬人也于時親王此旗四方八大龍王四角四天王

中圓相内十界大曼荼羅日蓮聖人仰而令書是為持九州向攘蒙古災給御旗是也

正應元年十月十三日

右衛門大夫宗仲判

右本紀兩通の末初最教寺あり。いづれをも祖の大徳宗師の義小於らん。是れりて純とまら。然ともも本所小のりぬ。蒙官の書翰到來必性その縁す。區の心。年月小のり。差ひあり。用左ふ一條と改け。北條九代記及は初通記の。の國史略歴代後考又々印行せ。蒙古持御旗抄を。その條の報書。未考し。その類。末と奉るのこ。

第三十七 蒙古襲來一始終の大畧

蒙古の襲來は、弘安四年五月二十一日、大元國の賊船四千餘艘、人數二十四萬餘名、九州に侵入し、親王の御旗を以て禱し、武の大將を遣はし、九州に戦ふ。親王は御旗を以て禱し、武の大將を遣はし、九州に戦ふ。親王は御旗を以て禱し、武の大將を遣はし、九州に戦ふ。



浪古の  
神木  
吹き  
巻く  
海  
波





按る不中... 相通紀... 奉歴の... 九月九代... 建治元年... 月... 使... 船... 倉... 囚... 逐... の... 昔... より... あり... 紀... 九月... 官...

弘安四年... 虎... 暴... は... 八角... 接... 倉... 接... 倉... 倉...



王及以阿倍磯流等之命軍船渡過... 王更命其... 船大及火門... 軍之船て祭せん... 深く...

浦平澤ひる也。同七月... 勢の廣の波... 博多の...

人之ま捕らる也... 昨社の具... 射の廣...

乙未の年... 乙未の年... 乙未の年...

乙未の年... 乙未の年... 乙未の年... 乙未の年... 乙未の年...

名 あり  
書画不図とそのこと。按て筆しるものあり。後治修連綿せし。殊に本年春の。其の終つた本あり。その終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

後宇多院弘安二年庚辰。不備れ。其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

下のもろ。其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。

其の終つた本あり。其の終の中不備れと。飛一する。一符所あり。其の終つた本あり。向ぶる。用おぼし。



高祖遺命  
上人定六人





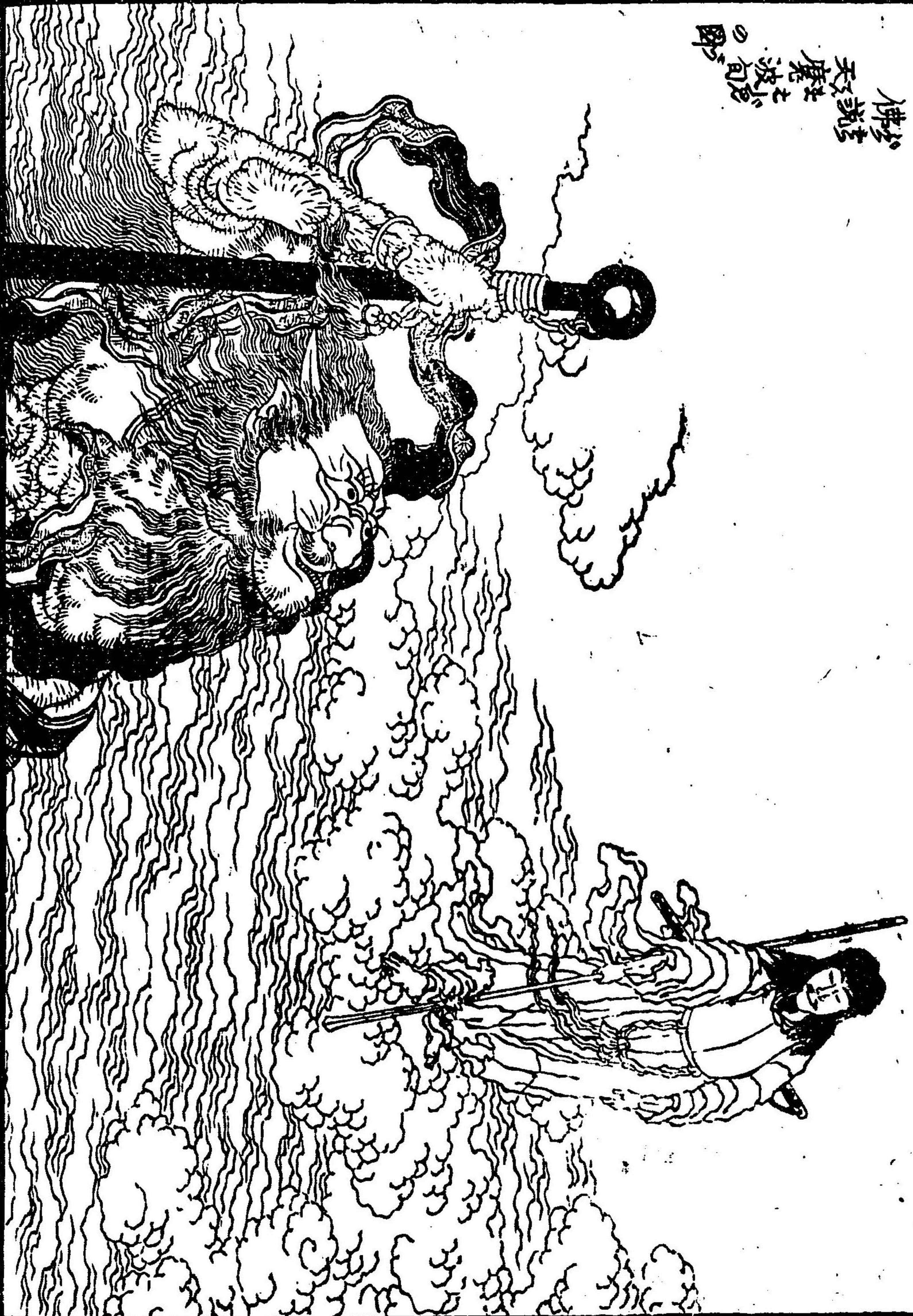








佛之  
天竺  
魔之  
波旬  
の  
圖



再び刑業を犯し... 彫刺せらば... 故亦天下日法の... 傳ふおろ一切... 候ゆらと世も... 此天の病も... 更ふその... さらば... 其一二... 流水... 万は十の... 農家... 劑と投... 華... 國門の

法華經の... とい百... どの... 後およ... 必て人... 其美... 權業... とある... 名徳... 観るべ... ぶ... さん... 國門の



そと疾の池小務を我幸い免ふとてその法華修持佐力の致を折る摩訶止  
観小三障は摩訶の説あり。ありとて下も通門力弱一は勿荊溪傳教の功とてその  
とと拒まざる。今日蓮が如く。小及びして摩訶王の如く怖れを在堂の守りて  
あり。一合二分の觀法不理と事との三あり。天竺傳教の如く在り。今の時の事あり。觀念  
優る故小大疑あり。彼の通門の二合とて地獄不殊ありと示す。あり

第四十 高祖池上小赴王の美本門寺開堂供養の事

秋より祖中症と感せられ歩むに依る不任せば不測あり。人種被推告る事あり  
びとらども。自然なる祖の正身不修あり。ありとて事とをとな集念との果勢不修あり。此  
大なる中神能中。池上在馬の天竺宗仲の馬不修あり。とて事あり。大に秋の事あり。とて事あり。有  
病なるは。夜夜夜とて宿疾不劇あり。ある月とて遂に月とて遂に宿疾更不癒せしむ。能  
中宗仲能くあり。世処の僻地數ある事あり。病ひと治まらざる事あり。比に彼本并氏に依  
て必そを後給はせしむ。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。

後國を治す。被疾は後を療む。ありとて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。  
とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。宿疾不劇あり。とて事あり。



悲歎。大地あるは衆生なり。まことの僧も衆生なり。今日の日蓮も衆生なり。今日の日蓮も衆生なり。...

第四十一 高祖疾病篤一美諸子遺戒の事

かくん十月五日。祖親等と持まひて一紙の遺状と云ふ。佛東院。此律の一題。此上同書。...

頼奉大田。宗明。名存。入。中。同。重。運。南。條。七。弟。之。澤。入。秋。元。本。弟。進。末。弟。...









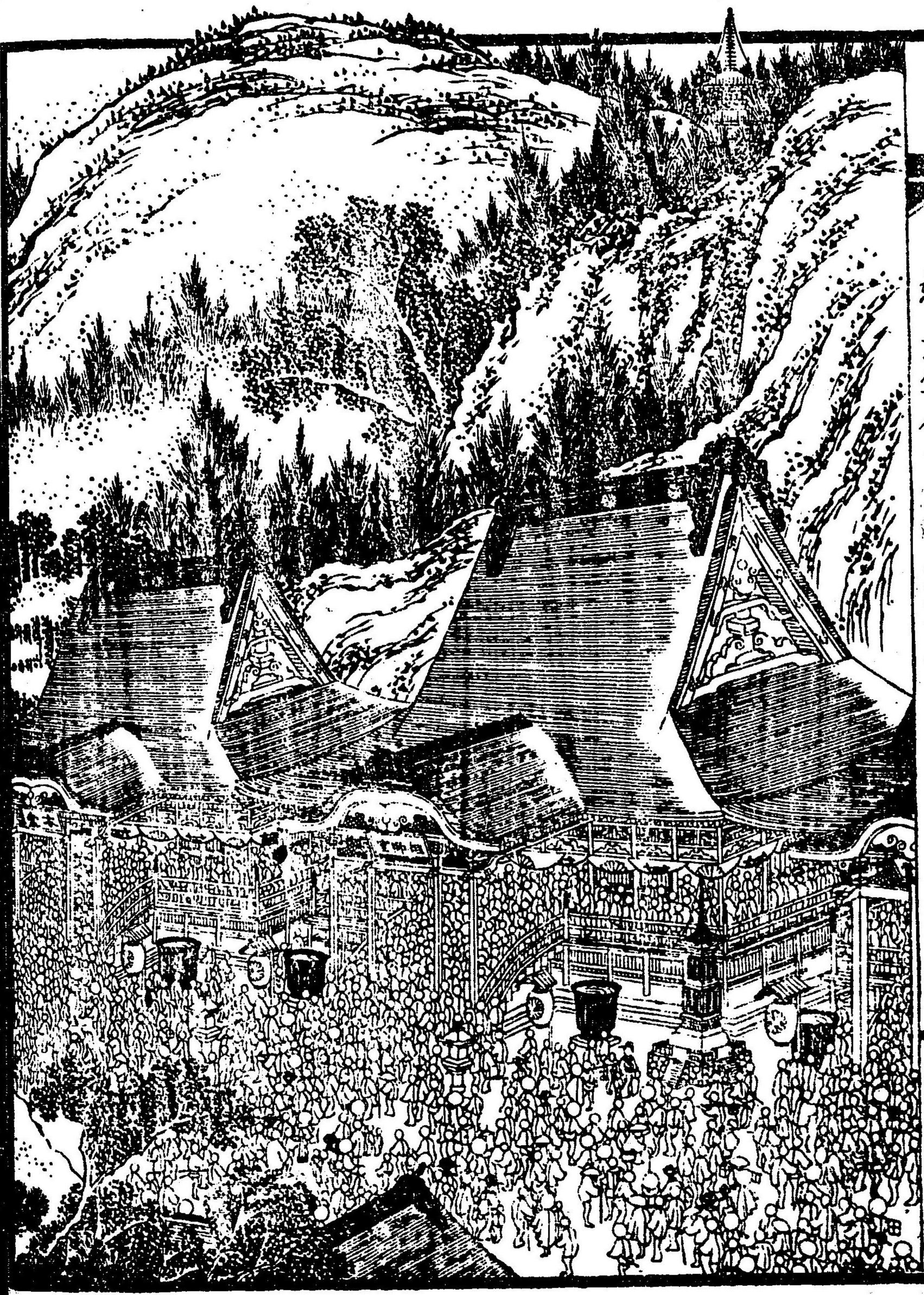




以下とある。その歴聖朝の勅教繪旨且封職木の二枚奉小暇ありてと。目傳の嗣と妙實  
 との二人相承するありと。これ先師小龍と云ふ。妙實傳小龍と云ふ。二年天下大旱。相承  
 普く法宗小龍と云ふ。後法の法と云ふ。然れども強の用く妙實小龍と云ふ。妙實二百の猶法  
 と云ふ。桂川の上におきて同者。法華と傳補と一軸のまゝ。先づ小龍。雷鳴く青雨降  
 降すと云。教日。卒去大。潤ひ。法氏。卒去。年と。なす。の。天。地。の。回。小。彌。ま。り。上。天。小。悅。び。の。心。  
 美談ふ所と云。奉。せ。上。と。妙。實。因。て。祖。お。よ。び。日。朝。日。像。小。善。護。号。と。揚。ら。ん。と。云。上。通。  
 許。ひ。ひ。祖。と。云。天。善。護。と。揚。り。朝。像。の。二。小。善。護。号。と。揚。ら。り。且。妙。實。と。大。信。い。と。云。  
 ま。く。大。宗。の。二。大。字。と。書。し。揚。ふ。か。く。後。救。回。の。安。樂。善。護。号。の。繪。る。そ。の。所。の。寶。杵。奉。  
 く。鳥。有。と。云。ま。く。再。び。傳。ふ。由。あり。奉。月。洗。小。押。後。り。寛。文。年。間。あり。後。西。院。法。華。  
 經。と。傳。ふ。ひ。奉。津。河。驛。一。なる。二。内。家。翰。と。深。き。存。れ。日。蓮。大。善。護。號。の。大。字。と。大。書。し。と。  
 妃。竹。大。納。と。小。揚。へ。り。時。小。道。院。日。法。の。志。道。種。あり。中。興。の。姿。と。振。り。有。利。本。願。个。  
 飯。依。ひ。ひ。下。大。字。と。付。を。用。ひ。大。納。と。書。れ。と。云。ま。く。廣。翰。の。播。と。日。法。小。龍。と。云。

日法至教と辨多と云。後五の運小龍の所化の祖。法華雲の十小龍の佛儀の記す所。新  
 以のつ。若しと云。たの傳けり。新謂階殊精。法華の結。一宗の。お。ま。の。人。の。は。と。切。お。  
 えて止。と。た。の。肯。か。か。天。恩。の。揚。あり。私。を。今。だ。と。圓。く。傳。と。書。と。云。と。  
 日法。と。云。と。復。食。と。忘。ま。ま。小。龍。お。正。と。再。あり。今。止。む。と。傳。を。天。種。小。龍。し。け。れ。  
 が。渠。が。心。算。の。法。集。入。と。云。と。傳。り。の。因。り。傳。播。松。山。の。寺。と。云。と。持。と。日。法。小。龍。入。日。法。  
 善。と。云。と。傳。ふ。小。龍。の。そ。と。り。有。保。氏。の。夏。陽。と。本。都。小。龍。と。雨。華。揚。と。同。と。云。と。四。  
 衆。小。龍。と。龍。延。山。日。給。上。小。龍。説。法。と。云。と。日。法。が。妙。法。の。威。傳。と。然。と。云。と。ま。の。聖。書。に。  
 其。痛。不。滅。と。傳。寓。小。龍。と。壽。六。十。歳。あり。と。云。と。死。期。門。あり。小。龍。と。廣。翰。の。大。善。護。號。傳。龍。延。  
 山。小。龍。と。云。と。後。法。門。人。陀。那。相。續。法。の。本。寺。小。龍。附。せ。ん。と。時。小。龍。坊。塔。希。亞。相。法。後。法。の。  
 ことと云。と。その。企。を。不可。と。説。ふ。と。祖。涅槃。集。小。及。び。法。華。來。來。法。の。外。に。龍。延。山。小。龍。と。云。と。これ。が。  
 宗。門。外。の。異。揚。法。山。小。龍。と。云。と。龍。延。山。小。龍。と。云。と。法。華。來。來。法。の。外。に。龍。延。山。小。龍。と。云。と。これ。が。  
 願。寺。小。龍。と。云。と。義。小。龍。と。云。と。祝。詞。翰。と。加。ら。と。云。と。法。華。來。來。法。の。外。に。龍。延。山。小。龍。と。云。と。これ。が。

身延山  
會式の圖



先祖の遺教に法運を興せしむるに... 宗の遺教に法運を興せしむるに... 宗の遺教に法運を興せしむるに...

後醍醐皇帝法華宗號の論旨

妙顯寺為 勅願寺殊弘一乘圓頓之宗旨... 天氣如此悉之以狀

建武元年四月十四日

日像上人

靈元皇帝宸翰大菩薩號副書

日蓮大菩薩號

太上法皇御宸翰無疑者也... 本意顯然矣昔時大菩薩號雖有... 庚子歲仲夏奉納之序為後鑑拜之畢是佛法韶隆宗門光輝永

五月二十一日

久遠寺住持日裕上人

都護前惡相藤花

此の遺教の住持業を著し奉る... 内なるは日像上人の御遺教なり

論旨

身延山久遠寺者為日蓮法華一宗之大導師故著... 全寶祚延長依 天氣執達如件

元禄六年五月六日

右中辨

妙法華院住持日脱上人御書

上代... 日蓮上人... 寛保二年... 天明... 竹田長五郎... 吉田金兵衛



日蓮上人一代圖會卷之六尾

房州小湊誕生寺末

江戸牛込榎町

松榮山大法寺藏



東都

松亭中村經年謹撰

東都

葛飾北齋畫圖

淨書

梅亭金鷲

割刷

江川仙太郎

安政五年季秋刻成

小石川區白山前町十一番地

明治廿一年九月求版

竹田長五郎

下谷區御徒士町壹丁目三番地

發行所

吉田金兵衛

發

賣

東京

須原屋茂兵衛

全 須原屋新兵衛

全 金花堂

全 吉川半七

全 大倉孫兵衛

全 淺倉久兵衛

全 和泉屋庄七

全 大村惣兵衛

全 別所平七

全 山口佐七

全 二三屋三二

全 齋藤兼藏

全 小林文七

全 松崎半造

全 横尾卯之助

全 鯨井利助

全 伊藤岩次郎

林平次郎

特別賣捌 中嶋精一

大矢瀧藏



777  
33  
34

